

「新たな予防法」

第十四回IPPNW世界大会テーマ

第十四回IPPNW世界大会会長・欧州地域代表副会長 アブラハム・ベハー

大会開会式におけるアブラハム・ベハー大会会長(フランス支部長・欧州地域代表副会長)のスピーチの主な内容を紹介する。なお、ベハー先生は当大会における国際評議員会で、今後二年間の任期で(米国・ワシントンD.C.で二〇〇二年五月に開催の次回世界大会まで)共同会長に選出された。

いったん核兵器が使用されれば、被害者を救う医学的手立てはないだろう。核の惨事から一般大衆を守る唯一の方法は、核兵器を徐々に削減し、廃絶することである。つまり、IPPNWの医師ができる唯一の処方は予防である。将来起こり得る核兵器による惨禍を防ぐには今、核兵器を廃絶するよりほかにない。

この処方箋に従って、IPPNWは、患者・世論及び政策決定者(権力者)という二つのレベルに働きかけ、国際的に解決策を提案していく。核拡散防止条約(NPT)と包括的核実験禁止条約(CTBT)の採択、国際司法裁判所による核兵器違法法の判決、そして国連総会にお

ける核兵器廃絶のための新アジェンダの採択等はIPPNWを一層勇気づけてくれた。

しかし、以前からの核兵器国も、新興核兵器国もNPTに違反した行動をとっている。インド・パキスタンは核実験を強行し、米国がCTBTの批准を否決したことで、CTBTは事実上無効となった。また、核兵器を一定の土地や地方に使用する最小限抑止という新しい概念が生まれたが、これは地域核競争につながる可能性がある。なぜこのように新たな核軍拡競争(特に戦場で使われる戦術核兵器の軍備拡張)の引き金が引かれてしまったのか、分析する必要がある。

核の拡散は地域的な軍事衝突に端を発する。例えば、カシミールとチベット問題しかりで、関係当事国を核兵器取得に駆り立てたのは地域紛争である。最小限抑止は、朝鮮半島あるいは北アジア全般においてもいえることである。欧州では、セルビアによるコソボ攻撃、NATOによるセルビア攻撃、NATOの東方拡大、チエチエン紛争などがおこり、ロシアを再び核武装にと駆り立ててしまった。米国は、自国が関わってきた全ての地域紛争を口実に、CTBTの批准否決や第四世代核兵器の軍備拡張を続けている。

このようなことから分かるのは、全ての戦争を防止しないことには、核戦争は防止できないということである。私たちの目標を達成するには、内紛であれ、地域紛争であれ、世界中のいたるところで起こっている紛争を防止しなくてはならない。

紛争のピラミッドや暴力のサイクルを思い出してみれば、この現象が繰り返し起こっていることがわかる。世論や政策決定者たちに従来の方法でアプローチしても、紛争の防止は無理なようだ。人々は、現在の紛争のみに関心を示し、将来起こり得る紛争には目を向けない。

政策決定者たちは、カスピ海やバルカン諸国、アフリカのグレート湖地域での微妙なバランス

を壊しはしないかということを心配するばかりで、NGOの警告にはほとんど耳を貸さない。彼らに注意を喚起して関心を向けさせ、私たちの提唱する予防が功を奏するには、新たな方法が必要だ。

それは、私たち同胞の公衆衛生分野における専門的研究や、他のNGOの幅広い知識や経験の中に見いだせる。まず最初の一步は、監視塔をつくり危険地域を見定めること。これが、唯一、戦争勃発前に介入できる方法である。また、従来の予防とは、禁止に基づいたものであり、これは必ずしもうまく行くとはいえない。禁酒や禁煙を掲げてモアルコール中毒や喫煙がなくならないのと同じだ。

私たちが提唱する新しい予防法はその逆である。それは、危険な状態にあるグループを見定め、問題となっていることを検証して、双方に何か恩恵や利益をもたらすような提案をすること。これには透明性のある民主的な話し合いと医学以外の様々な専門知識が必要である。

新しい予防法を取り入れることで、IPPNWは次のような疑問に答えることができるだろう。国家が核兵器を廃絶した場合どのような利益があるか? 小国にとつて、集団的安全保障は核抑止に変わるものとなり得るか? 廃絶の決定が国際社会全体でなされたものでなく、一

方的なものの場合、一方的廃絶を決意した小国は、大国から攻撃される危険性はないか? 異民族間の憎しみを許しあうことで何が得られるか? 内戦の犠牲者の苦しみを和らげようとする北アフリカやバルカン諸国の医師の目的は同じか?

第十四回IPPNW世界大会ならびに医学学生大会は、環境・厚生大臣、青少年スポーツ大臣、ユネスコ(国連教育科学文化機関)の後援を得て開催され、核兵器廃絶というIPPNWの目標のもと、政治家を含む様々な分野の専門家も参加して、ワークショップやフォーラム、サイアンティフィック・セッションで紛争予防について議論する。

第十四回世界大会でこのように様々な議論を行うのは、世界中から集まったIPPNWのメンバーに、この新たなチャレンジに加わってほしいからである。新たな方法が多種多様であればあるほど参加者は多くなり、核兵器と他の大量殺戮兵器が全廃される日は近くなるだろう。IPPNWは、その目標達成のために予防の文化を受け入れ、新しい医学的方法を採用することによりさらに飛躍することができる。核兵器の悪夢から解放されたれ、世界平和への希望がこの夏、ここパリに生れる。

(翻訳 IPPNW日本支部)

「骨と関節の月間」記念講演会日程について

一、骨と関節の日講演会

日時 十月十五日(日)

午前十時～午前十一時四十五分

(九時受付開始)

会場 広島市中区土橋町七 一

中国新聞ビル七階大ホール

演題名

(1) 『高齢者の骨折について』 三〇分

演者 広島大学整形外科

講師 安永裕司 先生

(2) 『寝たきりにならないために』

転ばぬ先の養生訓 一時間

演者 東京大学大学院教育学研究科

身体教育学講座

教授 武藤芳照 先生

二、電話相談室

日時 十月十五日(日)

午前十時～午後四時

電話番号 (〇八二)二三三二七二二

三、骨密度測定 講演会会場にて実施

四、骨折予防装具・骨粗鬆症予防食品展示 講演会会場にて実施

以上

お問い合わせ先

〒七三〇〇〇三三

広島市中区八丁堀四 一八 河石記念病院

「骨の予防」係

骨と関節の月間担当理事 平松 廣夫

TEL (〇八二)二三二二 九五二五